

# 2 糖尿病神経障害に対する牛車腎気丸の効果



## 宇野 智子 先生

愛知学院大学保健センター

1992年 名古屋市立大学医学部 卒業  
 同年 同大学病院内科 研修医  
 1993年 中部労災病院内科 研修医  
 1994年 同病院糖尿病センター  
 2000年 名古屋大学総合保健体育科学センター 学外研究員  
 2004年 愛知学院大学保健センター・同大学教養部 講師  
 2009年 同大学心身科学部健康栄養学科 准教授

### はじめに

糖尿病合併症である神経障害に由来する四肢のしびれ、冷感、疼痛を訴える症例は多く、糖尿病患者の社会生活を強く制限し、日常のQOLを著しく低下させている。したがって、糖尿病神経障害への対策は、糖尿病臨床上、最も重要なポイントの一つとなっている。今回われわれは糖尿病神経障害に対し、牛車腎気丸が有効であった症例を紹介する。

### 症 例

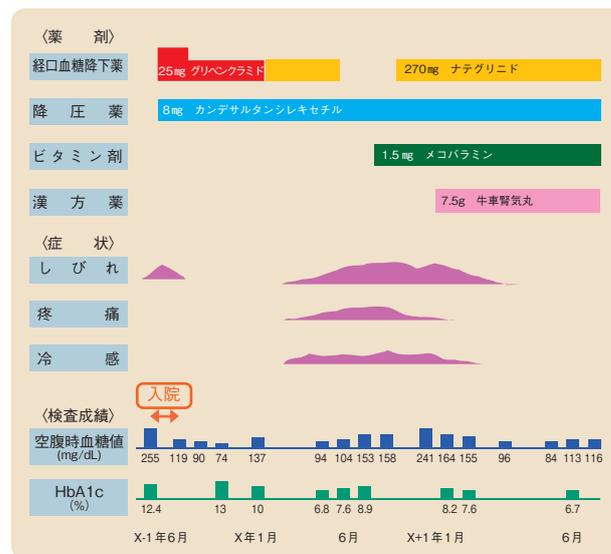
#### 症例1：74歳 女性 糖尿病神経障害

主 訴：しびれ、冷感、疼痛

現病歴：X-1年5月に当院を受診し高血圧と糖尿病を指摘され、同年6月に入院した。入院時所見では血圧 190/82mmHg、空腹時血糖値 255mg/dL、HbA1c 12.4%であった。眼底所見では前増殖性網膜症を、神経学的所見では腱反射の消失、振動覚の低下を認めた。

経 過：入院後、食事療法の下、経口血糖降下薬、降圧薬の投与を受け、3週間で空腹時血糖値 118mg/dLまで改善し退院した。以後、外来通院していたが、X年初頭より、下肢しびれ、冷感、疼痛が出現し次第に増強してきた。血糖コントロールは比較的良好に保たれていたが、神経症状の改善傾向を認めず、X年11月よりメコバラミンを投与した。投与1ヵ月後、疼痛(ピリピリ感)は次第に消失したが、しびれ、冷感は約3ヵ月後も改善なく、X+1年2月、牛車腎気丸の投与を開始した。投与1ヵ月後からしびれ、冷感は順次軽減しほとんど消失した(図1)。

図1 症例1 臨床経過



#### 症例2：57歳 男性 糖尿病神経障害

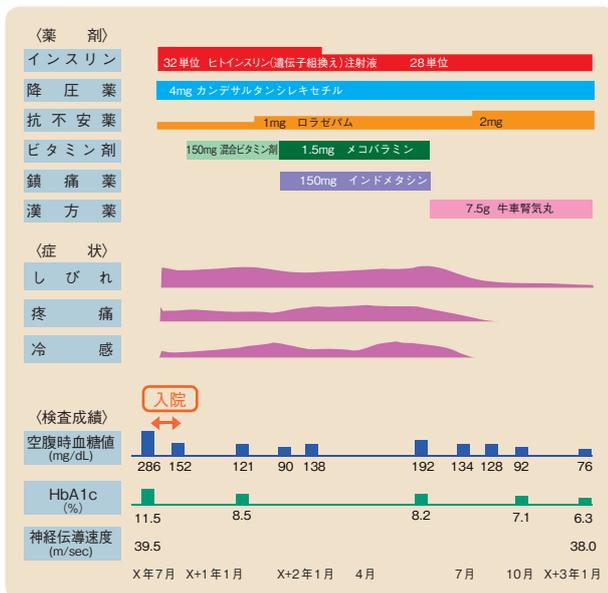
主 訴：下肢しびれ

現病歴：X-4年より糖尿病、高血圧で当院に通院中であった。X年5月より眩暈、下肢しびれが出現し、同年7月当院に入院した。入院時所見では血圧 184/100mmHg、空腹時血糖値 224mg/dL、HbA1c 11.5%であった。眼底所見では前増殖性網膜症を、神経学的所見では腱反射の消失、振動覚の消失を認めた。

経 過：入院後、食事療法の下、インスリンの皮下注射による厳格な血糖コントロールを行った。血糖コントロールが比較的良好となった時点で退院し

たが、愁訴は改善せず、ビタミン剤、消炎鎮痛剤などの内服もそれほど著効しなかった。それ以後も外来通院していたが、X+2年4月、両足趾に糖尿病性壊疽が出現し、下肢しびれ、疼痛、冷感が悪化した。そこで牛車腎気丸の投与を開始したところ、疼痛、冷感などの症状は著しい改善を認めた(図2)。

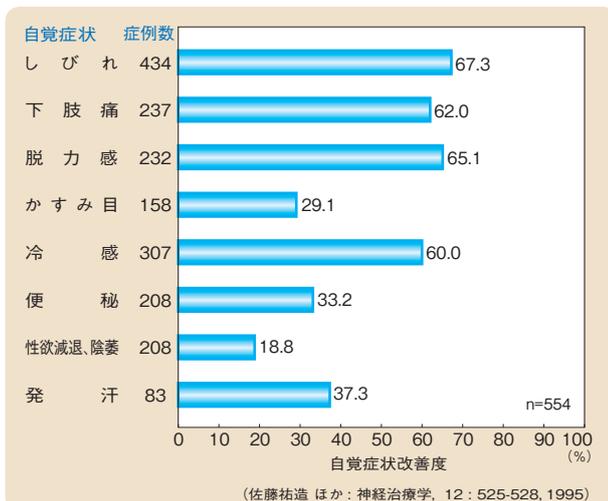
図2 症例2 臨床経過



## 考 察

糖尿病神経障害に対する牛車腎気丸の臨床成績については、これまでもいくつかの報告がある。た

図3 糖尿病神経障害に対する牛車腎気丸の効果



たとえば佐藤らは多数の症例で牛車腎気丸が、しびれ、下肢痛、脱力感、冷感などに高い改善効果を示すことを報告している(図3)。また、牛車腎気丸とメコバラミンの封筒法比較試験でも、牛車腎気丸はメコバラミンよりもしびれについては改善効果が有意に高いことが報告されている<sup>1)</sup>。

## まとめ

糖尿病診療に漢方薬治療を導入する場合、治療法の選択は西洋医学的手法で行い、合併症を中心とした治療上の問題点にのみ漢方薬を使用することが原則である。糖尿病神経障害に対する牛車腎気丸の投与は、しびれを中心とする症状を改善し、合併症の発症や進展を防止することで治療に寄与することが可能である。

1) 坂本信夫ほか：糖尿病性神経障害の東洋医学的治療 - 牛車腎気丸とメコバラミンの比較検討 -. 糖尿病. 30:729-36, 1987.

## COMMENTS

**後山：**糖尿病には牛車腎気丸が定番のように考えられていますが、一方最近では、糖尿病の西洋医学的治療薬も大変進歩しつつあります。その中で牛車腎気丸の意義について、峯先生はどのように考えられますか。

**峯：**西洋薬と牛車腎気丸の作用機序は全く異なり、さらに牛車腎気丸には足腰を強くする効果もあり、アンチエイジングドラッグの代表でもあります。新しい西洋薬が開発されても、牛車腎気丸の意義は変わらず、併用の有用性についてもさらなる検討が期待されるでしょう。